

旅
190
3

190
5



於
190
5

絲櫻春蝶奇縁卷之五

東都

曲亭馬琴編述

第七段

丈總を將て木嬰鎌倉不赴く
叢中子躰て黒平戦袍と奪ふ

五十四塚東六郎が女見小草ハハる秋又ととり水行と鎌倉不赴く
その船子類憑く脱ぎかぐえんじらべワダ身ハ小舟子後一葉の曇波風
漂ふすく艱苦不乃堪むと氣絶てそのしらるる疾走とびさる程に入あて
お女とと喚ぶ声の忽地耳子入ふけまは吐嗟と叫びて鷺子常ん眼をひらけ
こいふ小艇の中あはるばして世寂とて人の草の菴子持佛の鉢池を極方は
海園の上小臥るる原草五層の葉ある松ハ辛く浦曲吹まをくれのさ
枝あげられけんと思ふといふもむねもいれどそつる高入候の事因へく

大川



行ふ。ある十七日の午ま死て遠江灘と申らん。いとをさし「まわ海波風さへお
 立ち死筋反覆らんとく」けり。小舟小舟一葉せられ浪のすうかく
 まれてそのちの工もあらず。願ふも多し。あま海の底を沈むひけん。幸而
 もゆきと縁余の管領家憲政朝臣の内にて神原矣所平と号す
 武士平矣又の後兄あり。又その子棟五郎ゆへつ。か為小云早め夫を修
 也。ゆきまふあり。果れども母の像見と婚縁の門出物ハ胸の獲袋をみちり
 られ失はせ。これもある。海船の波間くは。楫を絶いとも危く。人々る。又の
 づつづらつづが帯を折りそえてあつり。袂色ハ牙も又かえり。たりのふり。今
 この三種と齎て途遙けれと厭ふ。涙余る親族へ送り。か了てあつらふ
 る。廣大の慈悲ある。といひかけて又目と拭へ。菴主の尼ハつ。どうちり。ま
 鼻うち。世ふら。とハつ。身ひろの秋。あ。ぬ。ん。身。る。房。令。いと痛。死

工。そ。も。尼。も。東。國。の。の。の。ら。し。か。な。あ。り。て。た。あ。り。る。世。本。捨。り。て。頭。を。剃。り。袂。又
 坂。東。の。い。づ。こ。西。國。主。三。所。の。觀。音。并。の。靈。場。を。殘。り。ま。り。か。ら。う。この。柴。乃
 門。本。宿。を。投。て。一。日。二。日。と。修。る。菴。主。の。女。僧。ハ。法。名。を。折。櫻。と。呼。び。ま。り。て。寡
 欲。無。心。不。可。思。殘。の。善。智。藏。と。せ。し。る。濟。度。利。生。の。德。高。く。應。驗。化。導
 極。き。百。年。前。の。事。と。い。ふ。面。あ。り。る。物。の。り。ま。り。も。その。面。貌。ハ
 い。つ。つ。て。齡。や。く。二十。あ。り。三。十。の。人。と。異。る。は。五。口。僧。ハ。か。も。佛。縁。あり。て
 そ。ろ。も。の。値。偶。せ。る。ハ。罪。障。を。懺。悔。し。て。つ。か。仰。ぎ。ま。り。名。を。木。嬰。と
 申。つ。て。隨。從。既。に。十。年。あ。り。四。と。を。い。ふ。春。の。比。卷。縁。の。為。菴。を。吾。儕。の
 ま。り。し。つ。猛。小。東。國。へ。赴。く。と。吾。儕。ハ。示。し。の。ま。り。下。と。び。て。死。せ。り。て。あ
 再。會。絶。く。と。い。ふ。が。小。後。が。清。果。を。な。ん。上。も。今。より。四。年。の。う。り。て。あ
 三。年。と。い。ふ。秋。の。う。り。人。を。救。ふ。と。あ。り。と。そ。の。次。の。年。の。春。必。東。國。へ。赴。く



幸あり夏は向て彼地まで。お小徒の素懐を遂へたあり。いよは紀の浦に
 よよる浪も冥相无偏と観せられ。五塵六欲の風吹せ吹井の瀆不磨る月を。
 随縁真如ともむればお小なる雲もなり。遂ふふまは衆生あり。悟て後八位も
 たり。と勉む。と鏡諭し袖を拂ておもひ。その言の聲ふ来未達ふ。この秋
 おん身を救ひしりて縁由をたづねま。鎌倉へ赴く人てお安くとおひき。かくまで
 師命お符合たまわれ。吾儕もつらら彼地まで。送りてけ進んせ。まらけ
 あれど九月もたまらづらふありぬ。おん身をやく本復ふ。おむむおむむ。おむむ。おむむ。
 寒き糸小向ひてたる。と旅寝せんといと危し。わが師も隨て後示して次の幸の
 春の比東園へ赴くとあり。と宣ひせ。このころ。わが園縁ある女人あり。いよを
 等閑ふらふ。死自を愛して後身も保養してある。春を待もひぬ。と鏡諭せ。
 小草へ耳を側つ。酔るが如く醒るがごとく。先住の尼折橋が不可量の権智を

その又當主木嬰が鴻恩を感佩し。よま下り日毎小岡如を汲み花を
拵て佛小母向父東六が取のうの恙あらんと祈る小木嬰へ又朝毎
加田の浦小券縁して拜糸を慕つ。主客あつたが糧小元て僅その月を送る
程小有一日小草ハ菴主小對ひて。名程自性よりいふよ。時小せりへわ
こ平。形いづ思癡多るとて笑ひもいふべきも。ものごとろ小のそりよ。
向ざんハ方海思のど。つらくりの取按さる小。この浦の名を親老ら。と
呼ぶ小。心こころ〜。聲こゑえはる小。郡の名を名草といひ。いづか名を小。小草と
いふ。此彼とひあはさる小。親子やういひあひぬ死菴東五六と。こまも
數そのひち小。いづといハ本嬰うち息現郡の名と浦の名と。いづか
係る小。いづれ。あつらひるもあつらん。つれ小。あて向はあ。いづれ。吉凶を
あつらひし。死せらん。をさへひ。名を更ふ。あつらひし。彼祖系の乱れ

やと死ハ。信のぶ總のぶきけ。いづか。こまを妹彼の紅線小比へて。親子夫婦の信
亂れ。こま。竟つひは完いそ聚あつ多くと。祝いそさそ。あつらひる。名をいづ。大總おほのみと。呼よび。更かえ。らん。こ
愛あひした。名なふ。は。いづ。と。いひ。慰なぐさむ。言ことばの。祭まつりも。来きら。り。糸いとや。る。律りつの。祥さかと。い
あつらひて。些ちハ。いづ。と。い。これより大總と唱けり。かくて今。あつらひる。小。暮くして。
あつらひて。天てん文ぶん十八年。春。由三月。あつらひる。し。六。花はなも。黄わう葉はつも。な。る。浦うらも。澳あつの。小
嶋しまの。八重やへ霞がきと。引ひ空そらハ。目め小。す。て。吹ふく。風かぜも。暖あたたく。旅たびの。いづ。れ。比ひあ。れ。ば。
尾お木き嬰えいハ。大總おほのみと。將まさて。鎌かま倉くらハ。卦くわく。へ。た。唯ただ体ていの。いづ。と。い。ひ。浦うらの。檀たん鏡きやうを。
う。ち。め。づ。つ。て。辞ことば別わかれ。大總おほのみが。長ながは。黒くろ髪かみを。半なか前まへて。垂た髪かみ女め僧そうハ。打う拵けを。あ
せ。脊せ負かひ。湯ゆを。衝つ鳴なり。草くさ菴あんを。任まかせ。て。三さん月げつ廿に一じつ日にちの。朝あさを。あ。つ。ら。ひ。
あ。つ。て。い。づ。と。い。と。れ。ど。女め子こと。い。は。る。長ながた。月つきと。い。ひ。途みち果はた。ら。ら。ず。四し月げつ廿に一じつ日にちの。
八はちの。月つき鎌かま倉くらハ。あ。つ。ら。ひ。け。し。と。大總おほのみハ。そ。か。き。神原かみはらが。病やま所しよを。訪たづね。ん。と。面おもを。

つづくといへども。按立郎がゆくへをまづる。よそがの能てあつりけり。かくて
四月のいづろよ送つ。五月雨の降りあふ。世の夏長ても興けし。此
有一日木嬰へらち例あふ。とくうら臥け且大總の是く何ぞ
難まじ。正首者病ども絶て茶餅の驗あり。目あくらりりやく。後ふ
木嬰ややく頭を擡て枕方ある大總をんり。おん牙が頃日のむく。
ころれあ稀る。む抱の真実。そのうひをたはつ病著はやく
おころ果んとへもほえ。この世の因縁あるべき。さひゆひを後中。
末期の水をん牙がゆ。受ると。この声も憑とく。又え。大總の
いと悲ひあぬ涙をまづぐ押拭ひ。本の香末の雷後と先。この世のよひ
老幼不定といひる。老朽の牙もあふ。四十のうへをこも。たのいそら
不遠に於る。病がづひゆふも湯茶の驗。らんやむをた。たのい。

宜の牙の為あふ。これれ。途をぬ。あふ。中宅おん牙のい。か為
命の親。在せ。産育の母も。ん。お。俄道者の檢。立思恵を頭。
戴さ。あふ。ぬ。後。お。伴。杖。も。憑。こ。お。ん。牙。捨。れ。て。い。
何と。願。い。自。を。愛。湯。茶。飲。む。ゆ。ひ。る。佛。の。利。益。神。の。加。
護。こ。ま。く。彼。と。く。音。お。こ。る。ゆ。ひ。る。後。れ。と。兼。念。の。名。も。医。師。
夥あり。宿のあふ。お相禪。今朝の加減の湯茶。は。た。ぐ。ま。と。可。憐。お。勸。ひ。
且。六。頭。を。掉。老。目。婆。扇。鶴。を。迎。る。と。も。い。そ。の。助。る。こ。ら。ゆ。お。ん。牙。お。物。を。り。
口。師。の。教。化。お。一。点。違。い。ど。お。ん。牙。が。為。あ。つ。る。東。路。は。亦。て。忽。地。は。素。懐。を。
遂。大。往。生。淨。院。の。御。國。へ。ま。つ。と。お。ん。牙。が。い。ま。ま。と。は。い。ま。あ。れ。ど。い。れ。ゆ。
又。お。ん。牙。が。日。来。の。穢。れ。お。愛。て。の。實。の。女。見。と。も。お。の。い。か。の。と。旅。は。て。單。身。お。
あり。ゆ。ひ。る。が。艱。苦。と。こ。と。と。痛。く。て。是。の。と。黄。泉。の。障。と。も。ん。と。う。り。て。今。お。

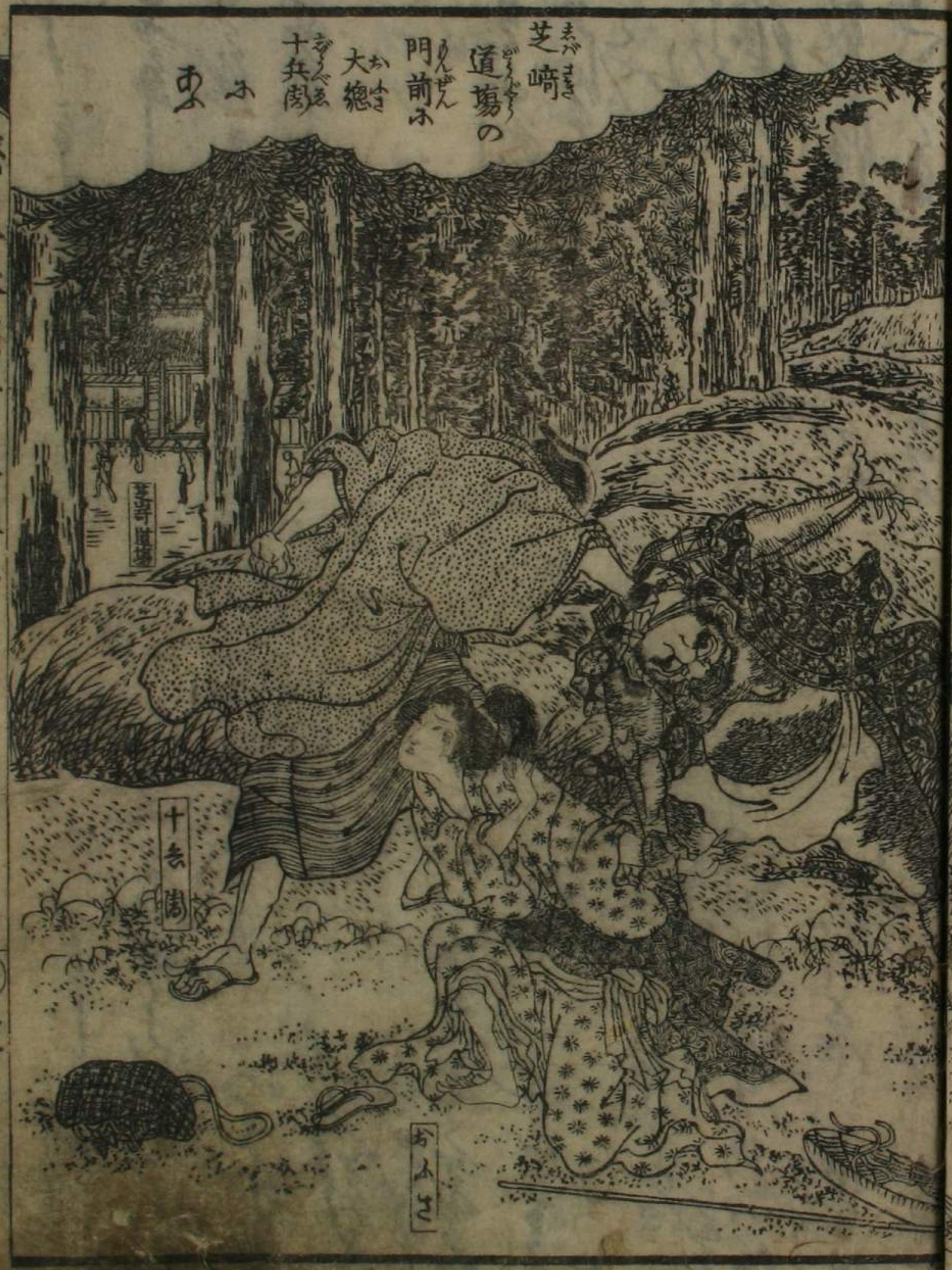
承嬰女赤葉下録卷五

刃を遣はる所あり。これすべし。尾へえ来武義ある。豊島郡芝崎の
道場より程遠くぬ石町二のちちる糸の向丸一八といふ人の妻あり。その比
名を義とゆき。男見ひたり産した。ある良人一八ゆい商物を買入る。不
春秋毎糸のゆりして六條の妓院ある。狂女をさへ惹き入れ。世に業を外はして
家を入りて六條の郷の風流小所が蔭言さくおはば。志のびく小言を以て
練へ。良人のいさうら腹ぞ。つ子綱五郎が七才の春理より離別せられた
ころ二親の世を去りて。胞兄才もあく親族も果敢く。これなり。縁天と雁の
侶は後と孫猴の枝離下。とどく。この廣さ武義野よ。この刃ひもをむら
か。これい。是狂女もあつ。と入もいられ。又姉と限り。おけ。刃を投
む。とどひつ。つみ田川までい。おれ。忽地は。おひ。下。芝崎道場へ走り入り
頭髻を剪り。度牒を乞て。秩父坂東残す。祝者井と巡礼。更西國を

ら巡りて。三熊野の瀧瀬煩悩の垢を洗ひ。加田の浦曲宿投。折櫻
禪尼。値偶せ。世。お。後。つ。つ。子。の。さ。ひ。絶。今。往生。乃
素懐を遂るも。禪尼の教化するもの。そ。下。お。吾。倫。が。近。江。流。且。く。旅。寮。ある
ころ。華。洛。不。情。死。の。風。吹。あり。浅。き。た。る。一。八。ゆ。い。件。の。狂。女。ゆ。り。若。賀。茂。河。不
投。度。牒。乞。て。秩。父。坂。東。残。す。祝。者。井。と。巡。礼。更。西。國。を
八。と。さ。ふ。ち。の。ぬ。や。れ。つ。子。綱。五。郎。も。今。茲。北。四。や。さ。り。けん。下。ま。び。浮。世。を
脱。して。舊。里。の。つ。子。の。へ。終。て。や。り。は。し。り。と。も。一。八。ゆ。い。才。あり。より。や
その子に推くとも。御あつ。坊。買。る。れ。化。郷。へ。移。轉。と。う。も。あ。ら。び。つ。る。れ
後。少。の。豊。島。あり。糸。屋。へ。い。り。て。身。を。寓。め。良。人。は。離。別。せ。れ。も。綱。五。郎。が
母。の。尼。不。縁。あり。の。と。名。告。あり。つ。子。綱。五。郎。も。強。面。り。て。紹。奴。の。誓。掘。あり。
こ。が。陀。袋。の。底。を。撈。ら。ぬ。綱。五。郎。が。胸。帯。と。芝。崎。寺。の。度。牒。あり。吾。倫。が。俗。性

その子の乳名をこれぞとせんせいのつ。紛わづものゆ。憂うける世の願の
 息の中へいひめがら果る歎きあやう乱。浅すれ死にまひる。一旦縁を
 捨べる。夫へ情あもわれ。推れまは別する。母公妹にわふあさる。慍
 うた牙の憂き火忍ぶが実の堪忍るん。昔くうもさる。ば「只草」三折掃
 禪尼加田の莽をゆきとれ東國のめ。宣ひが。そのらへ音耗を夜。さぬ
 ぶふ世は女子と生る。のへの罪障もいとぬる。彩のん身も仏縁あつて禪尼
 値偶志のへし。いふにエハ只是の。その藤のうたう。不宿のあ。ばうを
 亡骸と野ふ捨て瘦る。犬を肥う。南無阿弥陀佛と念ぶ。是より絶て
 おいご。その睡は睡る。ご。念は息絶より。う。う。疎る茶濁碗は冷る
 ちろ。粥をぐ。ん。ば。ご。あ。の。浮世のう。橋。う。う。つ。青。あ。は。は
 大徳の袖とま。り。あ。ご。共。死。あ。ぐ。歎。く。物。う。宿。の。あ。は。は。凍。れ。後。乃

車へ形のご。都下の法令を任る。せめてその白骨を六舊里へ送んとて亡骸を
 煙とつ。袈裟法衣をなご。みる尼寺。ご。夏。あ。の。実。の。母。つ。う。あ。う。く。
 初七追薦の法送を可憐。う。う。初。ひ。律。う。う。不。課。う。う。痛。の。あ。う。う。小。別。を。音
 一文字の陣羽織を白く。初。初。を。氷。か。負。ひ。白。骨。の。壺。を。頂。は。掛。む。不。そ。も。只
 ひう。武。の。の。田。を。あ。て。あ。東。を。予。て。め。夜。よ。その。夜。の。芝。生。不。痛。投。う。つ。次。の
 日のまご。芝。崎。道。場。の。門。前。を。ま。ま。う。う。この。如。前。面。の。う。う。う。松。の。葉。未。ふ
 志。左。右。の。夏。草。生。敷。う。路。一。條。の。外。え。え。ど。比。六。月。の。上。旬。る。ん。ば。草。類。暑。者
 して。た。ぐ。た。夕。陽。送。れ。つ。杖。り。て。草。葉。な。う。た。拂。ひ。ひ。た。拂。ひ。ひ。く。り。あ。ご。う。い。と
 ち。う。う。の。あ。男。行。魚。を。ひ。う。肩。被。て。大。徳。の。後。方。小。娘。君。う。う。姉。兄。よ。雲。時
 待。の。う。こ。茶。う。う。う。う。く。吸。ひ。ひ。ひ。て。竹。輿。を。負。入。と。声。を。め。せ。ど。憂。い。ふ。せ。の。あ。の
 不。事。よ。後。の。竹。輿。を。足。が。や。と。一。肩。昇。て。め。ひ。孫。と。い。ひ。も。あ。い。を。ま。う。う。草。と



糸杉春成言集卷五

はごころも。臂を伸くと引直して。吐きと騒ぐ胸を締め。徐々ふんふん。つら
つらめびのこゝろ。みせせ。いんふ。竹輿を借りのる。だ。ゆべ。里も。中。近
ろ。ご。放。さ。さ。や。と。身。を。ま。ろ。弱。氣。を。ん。せ。ね。ご。子。の。身。ひ。と。ろ。鬼。ふ。さ。る。を。引。持
と。膝。の。り。ろ。く。齒。落。す。の。の。ご。困。果。る。形。勢。の。ゆ。男。の。冷。笑。ひ。妙。は。よ。い。と。く
罵。り。も。の。る。行。奠。昇。て。せ。ら。る。の。の。の。の。ま。ね。げ。け。の。暮。さ。ん。ご。後。奠。の。微。八。と
呼。ぶ。と。東。海。道。を。股。の。ひ。け。一。度。も。缺。る。建。場。酒。女。子。ひ。と。ろ。不。碎。さ。ん。て。指。を
衝。ぐ。い。は。し。て。棒。組。せ。ら。し。ひ。口。を。さ。し。ふ。ん。れ。が。約。李。も。あ。び。り。ろ。紙。包。を。脊
中。の。胸。の。物。を。押。え。り。可。惜。女。子。の。直。が。わ。ら。る。竹。輿。を。ま。さ。ぶ。と。負。れ。り。ま。ろ
その。約。李。と。遠。く。竹。輿。を。た。も。つ。と。その。隙。を。逃。れ。と。ま。ま。を。ま。り。も。る。と。ま。ご。ど
ろ。も。纏。て。引。と。ま。る。行。杖。の。あ。ひ。め。の。解。て。此。被。撲。地。と。倒。れ。扱。よ。微。八。が。取。ら。る
紙。包。を。空。き。ぬ。投。揚。す。六。邊。の。る。の。叢。中。へ。あ。り。て。所。在。へ。ま。れ。ご。ど。ま。り。ぬ。

喃。その。身。も。命。も。あ。え。が。た。物。に。返。し。て。と。し。り。の。め。め。り。ご。大。總。が
腕。探。あ。び。て。ま。さ。る。不。行。輿。へ。と。入。ま。ろ。搦。ん。と。ま。れ。ご。身。ひ。と。ろ。で。六。虎。尾。を
搦。と。引。と。ま。れ。面。を。ま。り。め。や。ご。ま。と。う。け。又。搦。ん。と。ま。る。間。又。大。總。と。ま。ろ
脱。ぎ。後。方。か。わ。り。も。ま。ご。ど。て。力。を。究。て。空。行。輿。を。揚。ぎ。忽。地。ろ。ろ。俯。ふ。
倒。し。て。い。ろ。搦。傷。る。額。を。接。て。唾。を。塗。ま。者。強。面。に。君。を。よ。い。ろ。ろ。ん。が。や。く。ま。で
骨。を。お。ら。と。ろ。ご。逃。ま。ろ。と。身。を。起。し。彼。首。ご。首。へ。追。蒐。る。浩。如。な。年。の。齡。四。十。あ。ま。ろ
の。一。個。の。市。入。道。場。ろ。ろ。賽。途。い。そ。び。て。ま。ろ。程。は。微。八。大。總。と。追。ん。と。て。を。れ
と。ま。ご。ご。巨。牛。を。ひ。た。彼。市。人。と。抱。き。首。ご。首。に。驚。と。て。眼。を。睜。り。と。い。何。と。ま。れ
と。衝。飛。と。扱。よ。微。八。を。仰。さ。ぬ。筋。斗。を。打。て。輾。轉。び。ま。ご。ご。記。も。ぬ。ご。ろ
け。り。大。總。へ。さ。ろ。ご。ご。人。の。た。と。け。子。息。つ。ら。あ。ご。襟。を。た。め。り。何。れ。の。雅。と。ま
ま。ご。ご。竹。れ。ど。難。を。救。ひ。の。ま。ご。ご。言。葉。は。揚。ぐ。か。じ。故。あ。り。て。漂。金。ろ。ろ。

不町の糸屋へゆくものぞ。其如きを送りあつた。この人の幸あらんとし人を
 市人うち点以不町の糸屋とて。その抑も身入りの人ぞ。妹旦那
 由縁の人の。今の主人は。縁のある人。ゆかりの。細五郎が。後見をとる。十兵衛
 あり。そのゆかりの。主従ある。叔母旦那が見る。けり。嗚呼。かほく。おねを。呼ばれて。
 せう。ぬ。隨の。綿。括り。けり。半年の。雨。を。竊。て。道。場。の。阿。弥。陀。經。千。部。の。あ。り。て。賽
 吾儕。よ。あ。り。て。悪。棍。又。指。す。も。さ。う。さ。う。さ。ま。の。と。親。切。は。何。處。に。お。も
 憑。り。た。小。入。姫。ある。と。あ。ら。ぬ。佛。大。徳。の。願。は。中。拜。し。そ。の。へ。筆。を。授。け。や。ひ。ん。が
 糸。屋。は。由。縁。の。あ。り。て。去。年。の。秋。より。故。あり。て。庇。を。受。る。尼。師。前。の。俗。名。の
 お。或。と。あらん。舊。の。あ。り。て。一。八。ぬ。ふ。離。別。せ。り。て。尼。は。あり。犯。何。州。の。年。を
 得。て。去。の。春。東。國。へ。立。上。り。て。鎌。倉。の。て。身。ま。り。り。の。い。百。骨。の。と。ま。あ。り。と。い。へ。十。兵。衛
 う。ら。杖。馬。の。原。未。ま。その。名。を。傳。せ。細。五。郎。が。実。母。の。尾。師。の。情。へ。一。家。を。出。恩。愛。の

羈。を。断。ち。ま。り。東。よ。あ。り。る。が。息。の。内。に。信。せ。ま。り。と。伯。く。往。主。の。素。懐。を
 不。遂。多。し。つ。と。い。ふ。回。は。身。を。起。さ。微。八。も。息。杖。を。も。り。て。十。兵。衛。を。お。ん。と
 さん。の。身。を。ひ。り。し。衝。と。入。て。息。杖。を。奪。ひ。ま。り。統。一。の。打。惱。せ。六。微。八。の。首。を
 擡。び。ま。り。せ。く。と。受。を。合。し。一。反。あ。り。ま。り。ま。り。の。急。地。よ。ま。り。て。空。竹。輿。を
 引。肩。被。足。不。信。と。逃。ま。り。り。十。兵。衛。の。身。怒。り。ま。り。て。杖。を。揮。て。追。ん。と
 さん。の。大。徳。の。袂。を。引。ま。り。早。り。の。り。過。失。あ。り。て。外。に。さ。り。ま。り。外。の。人。あ。り。ひ
 か。ひ。ま。り。庇。覆。あ。り。て。後。ま。り。て。い。ま。り。ぬ。ま。り。と。曩。小。件。の。悪。棍。が。引。袂。ま。り。て。書。中。へ
 投入。ま。り。り。妻。衣。秘。符。の。お。も。ゆ。り。と。い。へ。十。兵。衛。杖。を。捨。る。を。さ。り。ま。り。あ。り。た
 か。り。是。首。お。り。あ。り。ん。彼。首。お。り。と。身。丈。より。あ。り。る。夏。草。を。ま。り。て。あ。り。た
 日。に。没。果。て。入。棚。の。積。り。ま。り。と。立。向。ま。り。と。十。兵。衛。後。方。を。ま。り。り。へ。り。ん。て。日
 る。ふ。お。り。身。と。ま。り。ふ。この。叢。中。を。徘徊。せ。り。彼。る。あ。り。た。その。歌。は。何。て。人。の。世。



糸村春樹言糸巻三



糸村春樹言糸巻三

新獲し一圓不町へ立切り。吾儕のふまびこり来て當るも夜の中よ入よと
 正のあどじとのひら杖をふりて道次よかきり。紙裂りけて標干。獲りて
 いそがせ大徳の遺憾けしども否といりゆもささかめて十兵衛は獲りし不町の
 切へ赴き入り。却説二月の月をりて草壁は集鳴虫の声。熊馬追番促藏は
 鉦敲道場は勤行の木魚の音もいと澄て人跡絶する時分を窺ひ行杖を
 取らんとて未戻りたる悪棍微八。前面より来る十兵衛が挑燈をかりて
 さんとて且く草小懸き入り。さへあざむきて十兵衛の立る杖をわけて一。
 挑燈を引捲つ。草をひたぐり入る程は忽地火小よる夏虫の羽風は挑燈うち
 滅さん。あも便る。と喧えり。彼此とうた探まび。微八も徐は探り寄り。兩人肩一
 袂色を搦り當て莞尔と。是方へ引け彼方へ。此彼共は驚きとて草踏
 切へ身を起し。送は争ふ如法夜は怒が拂ひ拂へつひ入り。揚る巻の回や。

草原さる露の玉掃目解一袂の内より来る陣羽旗とていふ名取んと双方
 へ。競て走りてゆの下より程より草をたれ。隙を窺ふ半响黒平。左右へ
 丁と突出とて巻ふ怒。まそ十兵衛微八の忽地は阿と叫びつ。倒れんやと足
 踏固り。さへと透りぬれんと身夜とておの各中お入現野干玉の悪平とて
 陣羽旗とて名極どりて跡どるんせとてあうかりり。
 他者云半响黒平は曩は嫡背棋は鎌倉の宿所を逐て入りて武蔵子
 あるより祥子第五巻不きり。是より下細五郎が仇使伍平太か
 残毒大徳小系狭五郎ホガ再傳を仔細に述婦幻の得意の
 如何五の巻より下よあらん状。

糸杉春蝶奇縁卷之五終

この冊子ハ八巻と全本と凡九月節後ノ稿を逸して初冬下旬ノ業を成
 けりも多し。近人全ク功を成の日遠くまでと云ふ事ども書肆ハ其の月没
 免の時節後とを嫌とて。つて今も其の書肆ハ其の月没
 年内は統て刊行せんとす。つて編左よその意を述大凡一編越向の巨壁ハ
 礫川の段あり。此者の用を云ふは勸懲を旨とす。つて局を統て其四方の
 着管初後の編と披閱して高評をまきまき。 **本伊**

第五 芝崎の段
 第六 圓塚の段
 第七 不町の段
 第八 礫川の段
 右残缺四巻陸統刊行して其全本と凡刊布の日遠くまでと云ふ事ども書肆ハ其の月没

東都書肆中金堂藏板書目

椿説弓張月 五編揃 三十巻 前北齋画

夢想兵衛胡蝶物語 前後九巻 全歌川豊廣画

隅田川梅柳新書 六巻 全前北齋画

稚枝鳩 五巻 全歌川豊國画

勸善常世物語 五巻 全溪齋英泉画

曲亭水滸傳 五編揃 廿五巻 全歌川國安画

優暈華物語 八卷 山東京傳作
可菴武清画

金鈴橘草紙 全五卷 古實物語 全六卷

旬殿實實記 三編 十五卷 曲亭馬琴作
歌川豐廣画

絲櫻春蝶奇縁 十前後卷 全曲
全曲 百了 画作

血血郷談 八卷 全前北齋 画作

右旬殿實實記以下の三部は先年祝融の火に罹り版木灰燼となりしなり。千今十有餘年ある家に彼公羽丹誠の筆頭微妙の巧小しく古今に傑出せるものなり。 viewing 欲する人年々小多し。故小わびて這回尚校正を加え再刻發市近き小なり。四方の首官唐齋の目を待て需ありんと願ふ。板中金堂欽白

頼豪阿闍梨怪鼠傳 十前後卷 曲亭馬琴作
葛飾北齋画

四天王剽盜異録 十前後卷 曲亭馬琴作
歌川豐國画

うとふ安方忠義傳 八前後卷 山東京傳作
歌川豐國画

繪本淺間ヶ嶽 九前後卷 柳亭種彦作
蘭齋北嵩画

霜夜乃星 全五卷 柳亭種彦作
葛飾北齋画

右之外諸家隨筆物あり。和漢の軍記実録あり。ひき上代物語乃そをい何にいんは正持佐の用向の作

東都書肆 中金堂 金屋又兵衛板

兩國米澤町三丁目

和馬日記 全四冊

北條時鄰與清稿注

新著聞集全八冊

夫もその作者を詳しむべしといふこと
其文雅而その趣多小同離其珍奇
妙語実不法著聞の冠たるあり

橘菴曼論四冊

田仲宣述

三養雜記 全四冊

山崎美成著

京襍乃記 全三冊 曲亭馬琴作

